

防災学習講演会

テーマ「頻繁する豪雨に対する豪雨災害に備える」

12月20日(月)、全校生徒を対象に、高知大学名誉教授、高知大学防災推進センター客員教授の岡村眞先生をお招きして防災学習講演会を開催しました。

春野高校周辺は、豪雨による洪水・浸水想定地域に指定されています。岡村先生の話によると、春野高校周辺では、2日間で904mmの雨量が観測された場合、深さ3.0~5.0mの浸水が予想されており、最近、高知市周辺において3日間で1000mmの雨量も観測されていることから、予想されにくい雨量ではないとのことでした。

線状降水帯等による豪雨により急激に浸水が始まると、道路と溝の区別がつかなくなり浸水深を視認することができないため、登校中の生徒の緊急下校はかえって危険であり、校舎の3階に避難したほうがよく、保護者の迎えも要請しないほうがよいとのことでした。地震による津波と同様に高所避難が求められますが、津波と違う点は、長く続く降水はある程度予測されることから、はやめの判断が可能ということでした。

講演後半には、近づくとされる南海トラフ地震についてもお話しいただき、防災意識が高まる有意義な講演会となりました。

《事後学習》

Q：今後、洪水・浸水被害に直面した時、自分はどのような行動をとるべきだと思いますか？

「家族と話し合って、避難するときに迎えに来ないとか、車の運転をやめるとかを一緒に共有しようと思った」(1年生)、「洪水、津波ともに到達するまでに時間があるため、その時間内に避難できるよう、マップの確認、プレーカーの確認、災害バッグを前もって準備しておくようにする」(2年生)、「冷静に判断し、無理にその場から離れようとせず、その場所で安全にやり過ごす方法を考えるようにする」(3年生)

(文責 柳井)



高知市ハザードマップをもとに説明されている様子



生徒会長よりお礼のあいさつ